

第3回 学校飛翔委員会の意見

平成29年2月13日（月）

○豊川商工会議所専務理事 松下紀人 様

- ・卒業生にもっと地元の企業に入って欲しい。インターンシップできっかけ作りができる。
- ・学校評価ABCで、それぞれの分掌がなぜABCだったのか資料に入れ込んで欲しい。

○豊川少年少女発明クラブ専任指導員 渡邊光雄 様

- ・学校評価ABCの中で、評価Bは過小評価したのではないか。
- ・F科は、研究発表大会で生きる力や即戦力となる実力を感じた。
- ・グローバル化への対応・・・発表の中で英語を使っていたので感銘した。
- ・小学生のものづくり教室で手伝ってくれているボランティア部の生徒達は、1学期と3学期を比べると別人のように成長する。
- ・学校はいろいろなことをネガティブな見方をすることも多いが、もっとポジティブであってほしい。

○豊川工業高等学校同窓会会長 柴田浩志 様

- ・学校評価は難しい、良い面をもっと見ても良い。
- ・心のアンケートの表で、アンケートに「ある」と回答した人数と、面談した生徒の人数が一致しない意味が、理解できなかった。→説明後、理解できた。
- ・同窓会としてはロボットとかコマなど、生徒の活躍をもっと援助をしたいと思っている。

○中日精工株式会社代表取締役社長 山本哲司 様

- ・研究発表大会でパイプを曲げる等の基礎的技術とIOTなどの最新技術の両方を扱っていることに感銘した。それぞれの意義を十分伝えてほしい。
- ・現在社会は少子化や労働時間を短くするなどあり大変な困難を抱えている。
- ・下請け業から脱却するために、自社製品の開発が必要になっている。
(コマ大会への出場を機会に、コマ製作を始めた企業もある。)
- ・企業としても、ものづくりの意味をしっかりと伝えたいので、ぜひインターンシップに来てほしい。

○代田地区連区長 岡田栄生 様

- ・いろいろな大会で優秀な成績を上げることで、モチベーションが上がる。さらに高みを望んでほしい。
- ・学校評価については、数字の目標に対しては具体的な数字の結果を書いて欲しい。
- ・心のアンケートで3年生の3学期が前年よりも大幅に多いことが心配である。
- ・進路指導は、進路部だけでなく、全職員で生徒の相談を受け、対応して欲しい。

○新道町町内会区長 村田綱雄 様

- ・研究発表大会は、生徒達が失敗を繰り返しながら成長しており、工業高校らしさが格段によく分かる。
- ・朝夕見ているが、生徒の表情がよい。

○PTA会長 星川佳伸 様

- ・12月いっぱい就職は決まったそうですが、進学希望者についてはどうか。

○PTA副会長 田中智子 様

- ・我が子は心のアンケートでお世話になった。スクールカウンセラーの方に、親とは違う立場で話を聞いてもらいありがたかった。

○PTA副会長 小山三穂子 様

- ・新聞記事でロボットやコマが出ていて盛り上がっていて、中学生にも反響がある。
- ・心のアンケートは、悩みを抱える生徒が年々減ってくれるといいなと願っている。